

# 課題解決に向けた行動計画

## 慶應義塾大学病院

2022年度  
第1回地域緩和ケア連携調整員研修（ベーシックコース）

### 【チームメンバー】

参加施設・所属	氏名（職種）
慶應義塾大学病院 緩和ケアセンター	竹内 麻理（医師）
	金沢 和幸（薬剤師）
	藤田 幸子（看護師）

## ① 選定した地域の課題

- 院内連携の充実から、地域への連携へ繋げていく
- 地域で欲しい情報がどのようなものかを院内医療者が十分に理解できていない
- (連携における課題) 私たちが地域の状況を把握できていない。

特に、入退院支援担当者以外は不十分。

→ 院内スタッフの知識の底上げ。役割の明確化

- 医療資源はある程度充実しているが、資源にバラつきがあり、選択が難しい。

## ② どんな地域を目指すのか

- 患者さん一人一人の希望を叶えられるような地域
- 院内・地域を通して患者さんの情報を共有・認識し、同じ方向を向いて進むことができる地域

### ③ 目指す地域を実現するために取り組むべきこと

- 地域連携に関する院内スタッフの知識とスキルのベースアップ
- 地域連携調整に至るための後進育成  
(+地域連携に取り組むマンパワーの確保に向けて病院への働きかけ)

## ④ 具体的な行動計画と目標達成時期

### First Step : 地域連携に関する院内スタッフの知識・スキルのベースアップ

#### <職種ごと>

##### (看護師)

- ・ 実践を通じた知識、技術の獲得 → **今すぐ開始！！**
- ・ 退院支援に関する研修 → **次年度検討**
- ・ 地域のステーションへの研修 → **他部門との調整やCOVID-19の収束が見えてから（1年後くらいから）**

##### (医師)

- ・ 個々の患者さんの今後の方向性を検討する退院支援カンファへの参加を促す → **今すぐ開始！！**
- ・ 地域での研修の機会をつくる → **COVID-19の収束が見えてから（1年後くらいから）**

##### (薬剤師)

- ・ 地域の薬局との情報共有 → **2023年度**
- ・ 個々の患者さんの今後の方向性を検討する退院支援カンファへの参加を促す → **今すぐ開始！！**
- ・ 地域でできる薬剤調整についての知識を増やす機会をつくる → **2023年度**

#### <病院全体>

- ・ 地域連携調整に至るための後進育成も含め、地域連携に取り組むマンパワーの確保 → **5年後くらいを目途に**
- ・ 地域連携に関する研修会や事例共有の会を開催 → **2023年度**
- ・ 既存の「わたしの道しるべ」の院内普及および地域社会資源など内容の吟味 → **2023年度**